



## 設置の計画

- [インストール方法](#) (1 ページ)
- [トポロジのオプション](#) (2 ページ)
- [要件および制約事項](#) (4 ページ)
- [ライセンス要件](#) (11 ページ)
- [必要なインストール情報](#) (14 ページ)
- [Export Restricted および Export Unrestricted ソフトウェア](#) (20 ページ)

## インストール方法

このガイドでは、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service の次のインストール方法を説明しています。

インストール方法	説明
クラスタの基本インストール	<p>この方法には、Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service クラスタの通常のインストールが含まれています。この方法では、最初にパブリッシャノードをインストールして、次にサブスクリバノードを追加およびインストールします。</p> <p>基本インストールには、次のカスタム ケースが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• アップグレード中にパッチを適用：インストールしているイメージより新しいバージョンが存在する場合は、インストールイメージにパッチを適用し、新しいバージョンにアップグレードできます。このオプションは、Unified Communications Manager にだけ使用できます。</li><li>• ソフトウェアをインストール済み：Unified Communications Manager または IM and Presence Service のソフトウェアのいずれかが事前にインストールされている新しいサーバーがある場合（たとえば、Cisco Business Edition）、事前にインストールされているソフトウェアを設定できます。</li></ul>

インストール方法	説明
クラスタのゼロタッチインストール	ゼロタッチインストールでは、1つのシームレスなプロセスで Unified Communications Manager と IM and Presence Service の完全なクラスタのインストールを完了できます。すべてのクラスタノードのサーバの詳細を提供し、インストールを開始すると、システムソフトウェアは、管理者からの手動による介入なしで、すべてのクラスタノードに動的にソフトウェアをインストールします。このメソッドは、大規模なクラスタをインストールした場合に特に便利です。
クラスタへのノードの追加	既存のクラスタに新しいノードを追加およびインストールするには、次の手順を使用します。新しいノードは、加入者ノードとして追加する必要があります。



(注) Cisco Prime Collaboration Deployment を使用して、クラスタをインストールすることもできます。詳細については、『Cisco Prime Collaboration 導入アドミニストレーションガイド』を参照してください。

## トポロジのオプション

ここでは、システムトポロジの概要と、トポロジにおけるノードタイプ間の関係について説明します。

### クラスタ

クラスタは、複数のサーバ間でコール処理の分散、プレゼンス状態およびデータベースレプリケーションを行うメカニズムを備えています。また、リソースと機能の透過的な共有を実現し、システムのスケラビリティを向上させます。

クラスタは、互換性があるソフトウェアバージョンを実行している一連の Cisco Unified Communications Manager ノードと、IM and Presence ノードから構成されます。

### パブリッシャノードとサブスライバノード

クラスタ内では、インストールするノードのタイプごとにデータベースパブリッシャがあります。

Unified Communications Manager のインストール時、インストールウィザードにより、インストールするノードがクラスタ内の最初のノードかどうかを指定することが求められます。最初にインストールされた Unified Communications Manager ノードがパブリッシャノードになります。このノードによって、クラスタ内の他の Unified Communications Manager ノードに音声およびビデオデータベースがパブリッシュされるからです。そのクラスタ内の後続のノードはすべて、サブスライバノードと呼ばれます。サブスライバノードは、それぞれパブリッシャ

ノードと関連付けられている必要があります。サブスクライバノードにソフトウェアをインストールするには、その前にパブリッシャ ノードのシステム トポロジ内ですべてのサブスクライバノードを設定する必要があります。

IM and Presence ノードをインストールする場合は、最初にインストールするノードが IM and Presence データベースのサーバとして機能します。このノードはクラスタ内のすべての IM and Presence ノード向けにデータベースをパブリッシュするので、IM and Presence データベース パブリッシャと呼ばれます。ただし、このノードと他のすべての IM and Presence ノードは、Unified Communications Manager パブリッシャノードのサブスクライバとしてインストールする必要があります。他のサブスクライバノードと同様に、ソフトウェアをインストールする前に、システム トポロジにこれらを追加する必要があります。

### トポロジのオプション

クラスタをインストールする際に、導入したいトポロジを導入したい決定する必要があります。次に例を示します。

- 必要なクラスタ ノードの数。
- すべてのクラスタ ノード1つの場所にインストールするかどうか、または地理的冗長性を提供するために、WAN 経由で接続されている別の地理的サイトのノードをインストールするかどうか。スケーラビリティの詳細については、[巨大クラスタ](#)を参照してください。

## IM and Presence のクラスタ トポロジ

IM and Presence サービスを導入する場合は、インストールを開始する前に、標準の導入 (IM and Presence Service Unified Communications Manager 上で) を行うか、IM and Presence 中央クラスタを導入するかを決定する必要があります。

IM and Presence の導入	説明
標準展開 (非中央型/分散型)	<p>IM and Presence クラスタを、Unified Communications Manager のテレフォニー クラスタと同じサーバにインストールします。IM and Presence クラスタは、プラットフォームと多くのテレフォニー クラスタと同じサービスを共有します。このオプションでは、IM and Presence クラスタへのテレフォニー クラスタの 1 x 1 のマッピングが必要です。</p> <p>基本的なインストールの順序は、有人インストールの方法で説明したものと同じです。詳細については、「インストール方法」を参照してください。</p> <p>ゼロタッチインストールでは、1つのプロセスですべての Unified Communications Manager と IM and Presence Service クラスタ ノードをインストールすることができます。</p>

IM and Presence の導入	説明
<p>IM and Presence 中央クラスタの導入</p>	<p>IM and Presence 中央クラスタは、テレフォニー クラスタとは別にインストールして、別のハードウェア サーバーに配置することができます。この導入では、テレフォニー クラスタと IM and Presence のクラスタ間 1 x 1 のマッピングの要件が削除されます。これにより、テレフォニー 導入と IM and Presence の導入を個別に拡張することができます。</p> <p>基本インストールの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Unified Communications Manager パブリッシャ ノードをインストールします。このノードは、テレフォニー 展開の一部ではありません。ノードは、中央クラスターのデータベースやユーザー プロビジョニングなどの機能を処理します。</li> <li>2. IM and Presence Service データベース パブリッシャ ノードをインストールします。</li> <li>3. いずれかの IM and Presence サブスクリバ ノードをインストールします。</li> </ol> <p>ゼロタッチ インストールでは、1つのプロセスで、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードと IM and Presence サービスの中央クラスタをインストールできます。ただし、テレフォニー クラスタを個別にインストールする必要があります。</p> <p>詳細については、<a href="#">IM and Presence Service の設定および管理ガイド</a>の「中央展開の構成」の章を参照してください。</p>

## 要件および制約事項

ここでは、Unified Communications Manager または IM and Presence Service をインストールまたはアップグレードするときに、システムが満たす必要のある要件と適用される制限事項について説明します。



- (注)
- デフォルトでは、システムは非 FIPS モードになっているため、希望する場合、有効にする必要があります。
  - クラスタ上で FIPS、コモンクライテリア、または強化されたセキュリティモードを有効にする前に、セキュリティ パスワードの長さが最小 14 文字である必要があります。旧バージョンが FIPS を有効にしていた場合でもパスワードを更新します。



- (注) Unified Communications Manager 14 には、バージョン 6.7 U2 以降の ESXi と、バージョン 13 以降の VM ハードウェアが必要です。最新 Unified Communications Manager の ESXi バージョンのサポートの詳細について <http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration> では、を参照してください。

## サブネットの制限

多数のデバイスを含む大規模な Class A または Class B サブネットに Unified Communications Manager をインストールしないでください。詳細については、[Cisco Collaboration System 12.x Solution Reference Network Designs \(SRND\)](#) を参照してください。

## クラスタ サイズ

クラスタ内の Unified Communications Manager サブスクライバ ノードの数は、4 個のサブスクライバ ノードと 4 個のスタンバイ ノードの合計 8 個を超えることはできません。Unified Communications Manager パブリッシャ ノード、TFTP サーバ、メディア サーバなどのクラスタ内のサーバ ノードの合計数は、21 個を超えることはできません。

クラスタ内の IM and Presence Service ノードの最大数は 6 個です。

詳細については、次の場所にある『*Cisco Collaboration Solutions 設計ガイダンス*』を参照してください。 <http://www.cisco.com/go/ucsrnd>

## IP アドレス要件

多数のサービスを適切に動作させるために、コラボレーション ソリューション全体は DNS に依存しているので、可用性の高い DNS 構成を適切な場所に配置する必要があります。基本的な IP テレフォニー展開で DNS を使用したくない場合は、Unified Communications Manager および IM and Presence Service を設定することで、ゲートウェイやエンドポイント デバイスとの通信にホスト名ではなく IP アドレスを使用できます。

静的 IP アドレッシングを使用するようにサーバを設定し、サーバが固定 IP アドレスを取得できるようにします。また、静的 IP アドレスを使用することで、Cisco Unified IP 電話をネットワークに接続したときにアプリケーションに登録できるようにもなります。

## DNS の要件

次の要件に注意してください。

- 混合モードの DNS 導入はサポートされません。シスコでは混合モードの導入をサポートしていません。Unified Communications Manager と IM and Presence Service の両方で DNS を使用するか、使用しないかのいずれかにする必要があります。

- 展開で DNSUnified Communications Manager を IM and Presence Service 使用する場合は、同じ dns サーバを使用する必要があります。IM and Presence Service と Unified Communications Manager で異なる DNS サーバを使用すると、システムの動作に異常が発生する場合があります。
- 展開が DNS を使用していない場合は、次の [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドを編集する必要があります。
  - [サーバ (Server)] : Cisco Unified CM Administration の [Server Configuration (サーバ設定)] ウィンドウで、クラスターノードの IP アドレスを設定します。
  - IM and Presence UC Service : Cisco Unified CM Administration の [UC サービスの設定 (UC Service Configuration)] ウィンドウで、IM and Presence データベースパブリッシャノードの IP アドレスを指している IM and Presence UC サービスを作成します。
  - [CCMCIP プロファイル (COMCIP Profiles)] : Cisco Unified CM IM and Presence Administration の [CCMCIP プロファイルの設定 (COMCIP Profile Configuration)] ウィンドウで、いずれかの CCMCIP プロファイルでホストの IP アドレスを指定します。
- マルチノードの考慮事項 : IM and Presence Service でマルチノード機能を使用する場合は、DNS 設定オプションについて、『Cisco Unified Communications Manager での IM と Presence の設定と管理』のマルチノード展開に関する項を参照してください。

## ファイアウォールの要件

ポート 22 への接続を開いて、スロットリングがかからないように、ファイアウォールを設定します。IM and Presence サブスクリバノードのインストール中、連続してすばやく Unified Communications Manager のパブリッシャノードに複数の接続が開かれます。これらの接続をスロットリングすると、インストールが失敗する可能性があります。一般的なセキュリティの考慮事項については、[Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド](#)を参照してください。

ポートの使用法の詳細については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)の「Cisco Unified Communications Manager TCP および UDP ポートの使用法」の章を参照してください。

## プラットフォームの要件

このリリースでは、サーバハードウェアで Unified Communications Manager と IM and Presence Service を直接インストールまたは実行することはできません。これらのアプリケーションは、仮想マシンで実行する必要があります。

仮想マシンでソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、次の操作を実行する必要があります。

- プラットフォームを設定する。

- ESXi 仮想化ソフトウェアをインストールして設定する。



(注) Unified Communications Manager の 12.5 には、13 の最小の VM のハードウェア バージョン 6.5 U2 を持つ最小の ESXi バージョンが必要です。最新の Unified Communications Manager ESXi バージョン サポートについては、<http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration> を参照してください。

- リリースに適した OVA テンプレートを展開する。

ここでは、仮想マシンに Unified Communications Manager と IM and Presence Service を展開する前に満たす必要があるプラットフォーム要件について説明します。

## サポートされるバージョン

次のソフトウェア バージョンは、リリース 12.5(1) でサポートされています。

- Unified Communications Manager 12.5.1.10000-22
- IM and Presence Service Service 12.5.1.10000-22

### バージョンの不一致

このリリースでは、このリリース用の Unified Communications Manager および IM and Presence Service サービスの次の 2 つの主要な導入オプションが提供されています。

- 標準展開：展開をサポートするには、Unified Communications Manager と IM and Presence Service サービスの両方で上記の 12.5.1.10000-22 バージョンを実行している必要があります。バージョンの不一致はサポートされていません。
- IM and Presence Service サービスの集中展開：集中展開オプションが IM and Presence Service サービスに設定されている場合は、IM and Presence Service 中央クラスタ内の、Unified Communications Manager インスタンスと IM and Presence Service サービスの両方で 12.5.1.10000-22 バージョンを実行している必要があります。ただし、中央クラスタが接続するテレフォニークラスタでは、12.5.1.10000-22 バージョンを実行している必要はありません。

## ソフトウェアの制限事項

サードパーティー製または Windows ベースのソフトウェア アプリケーションはインストールまたは使用できません。このシステムでアップロードおよび処理できるソフトウェアは、システムによって提供され、デジタル署名がなされたものだけです。詳細については、[Security Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)の「オペレーティング システムとセキュリティのハードニング」の章を参照してください。

すべてのソフトウェアのインストールとアップグレードは、Cisco Unified Communications Operating System Administration を使用して行う必要があります。

Unified Communications Manager および IM and Presence Service のソフトウェア互換性についての詳細は、[Compatibility Matrix for Cisco Unified Communications Manager and the IM and Presence Service](#)を参照してください。

## ユーザー名とパスワードの要件

インストール中に指定しなければならないユーザ名およびパスワードは、次のとおりです。

- 管理者アカウントのユーザ名とパスワード
- アプリケーション ユーザ名およびパスワード
- セキュリティ パスワード

### 管理者アカウント

管理者アカウントのユーザ名およびパスワードは、以下にログインする際に使用します。

- Cisco Unified Communications Operating System Administration
- Disaster Recovery System
- コマンドライン インターフェイス

管理者アカウントのユーザ名およびパスワードを指定する際は、次のガイドラインに従ってください。

- 管理者アカウントのユーザ名：先頭を英文字にする必要があります。英数字、ハイフン、下線を使用できます。
- 管理者アカウントパスワード：6文字以上の長さであることが必要です。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

コマンドライン インターフェイスを使用して、管理者アカウント パスワードを変更したり、新しい管理者アカウントを追加したりできます。詳細については、『[Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions](#)』を参照してください。

### アプリケーション ユーザ

Unified Communications Manager をインストールする際は、アプリケーション ユーザ名およびパスワードを入力する必要があります。アプリケーション ユーザ名およびパスワードは、システムにインストールされている以下のようなアプリケーションにアクセスする際に使用します。

- Cisco Unified CM Administration
- Cisco Unified Serviceability
- Real Time Monitoring Tool



- Cisco Unified Reporting

アプリケーションユーザー名およびパスワードを指定する際は、次のガイドラインに従ってください。

- アプリケーションユーザー名：アルファベットで始まる名前である必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。
- アプリケーションユーザーパスワード：6文字以上の長さである必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。



**注意** システム アプリケーション名をアプリケーション ユーザー名として使用しないでください。システム アプリケーション名を使用すると、データベースのインストール時に回復不能エラーが発生し、インストールに失敗します。

システム アプリケーション名は次のとおりです。

- CCMSysUser
- WDSysUser
- CCMQRTSysUser
- IPMASysUser
- WDSecureSysUser
- CCMQRTSecureSysUser
- IPMASecureSysUser
- TabSyncSysUser
- CUCService

コマンドライン インターフェイスを使用して、アプリケーション ユーザー名およびパスワードを変更できます。詳細については、『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

### セキュリティ パスワード

インストール中にセキュリティパスワードを指定する必要があります。Unified Communications Manager システムでは、このパスワードを使用して、クラスタ内のノード (IM and Presence Service ノードを含む) 間の通信が許可されます。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同じにする必要があります。

セキュリティパスワードは6文字以上の長さである必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

## パスワードの推奨事項

インストール ウィザードは、入力されたパスワードが強固であるか確認します。強固なパスワードを作成するには、次の推奨事項に従ってください。

- パスワードは、長さ6文字以上にしてください。パスワードには英数字、ハイフン、アンダースコアを使用できます。



(注) クラスタで FIPS、コモンクライテリア、または拡張セキュリティモードを有効にする場合、セキュリティパスワードが最小14文字以下であることを確認します。

- 印刷できない ASCII 文字は使用しないでください。
- 少なくとも1つの英数字を含めます。
- 大文字と小文字を併用します。
- 文字と数字を併用します。
- 特殊記号を含めます。
- 長いパスワードほど強固であり、短いパスワードよりも安全であることに留意してください。

以下のようなパスワードは避けてください。

- 英数字だけを使用している。
- 英数字以外の文字を使用していない。
- 固有名詞や辞書に載っている単語など、意味を持つ単語は使用しないでください。また、これらと数字を組み合わせて使用することも避けてください。
- 認識可能な単語の反転は避けます。
- aaabbb、abc123、qwerty、zyxwvuts、123321 など、一定のパターンの語句や数字は使用しないでください。
- 他の言語において意味を持つ単語は使用しないでください。
- 誕生日、郵便番号、子供やペットの名前など、個人情報を使用しないでください。

## インストール時間の要件

### Unified Communications Manager の時間の要件

サーバのタイプに応じて、インストールプロセス全体で45～90分かかります（インストール前後のタスクは除く）。

### IM and Presence ノードの時間の要件

IM and Presence インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じて、サーバ 1 台あたり 45 ～ 90 分かかります（インストール前後のタスクを除く）。

## ライセンス要件

ここでは、Unified Communications Manager のライセンスング要件について説明します。IM and Presence Service



- (注) Unified Communications Manager リリース 12.0(1) では、Prime License Manager の代わりにスマート ライセンシングが使用されるようになりました。スマート ライセンシングでは、Unified Communications Manager サーバをアップグレードまたは移行する前に、スマート アカウントを作成して設定する必要があります。

Unified Communications Manager から Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに接続するには、次の展開オプションを使用できます。

- 直接：Unified Communications Manager が使用情報をインターネットから直接送信します。追加のコンポーネントは不要です。
- Cisco Smart Software Manager サテライト：Unified Communications Manager が使用情報をオンプレミスの Smart Software Manager に送信します。データベースの同期を保つため、定期的に情報の交換が実行されます。Smart Software Manager サテライトのインストールや設定の詳細については、次の URL <https://www.cisco.com/c/en/us/buy/smart-accounts/software-manager.html> を参照してください。



- (注) Cisco Smart Software Manager サテライトは、スタンドアロンの Prime License Manager に類似したオンプレミス コレクタです。

- プロキシサーバ：Unified Communications Manager がプロキシサーバを使用し、インターネット経由で使用情報を送信します。

## Unified Communications Manager のライセンス要件

シスコスマートソフトウェアライセンスングは、ライセンスに関する新しい考え方を提供しています。ライセンスの柔軟性が増し、企業全体のライセンスがシンプルになります。また、ライセンスの所有権および消費が可視化されます。

Ciscoスマートソフトウェアライセンスングを使用すると、デバイスが自己登録し、ライセンス消費を報告し、製品アクティベーションキー（PAK）が必要なくなり、ライセンスの調達、

展開、管理が簡単にできるようになります。ライセンス資格を単一のアカウントにプールして、必要に応じてネットワーク経由でライセンスを自由に移動することができます。Cisco製品全体で有効化され、直接クラウドベースまたは間接導入モデルによって管理されます。

Cisco スマート ソフトウェア ライセンシング サービスでは、製品インスタンスを登録し、ライセンスの使用状況を報告し、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトから必要な認証を取得します。

Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0(1) 以降のバージョンでは、Prime License Manager が Smart Software Manager に置き換わりました。Cisco Prime License Manager はリリース 12.0(1) 以降では使用されなくなり、[インストール済みアプリケーション (Installed Applications)] ログイン前画面には表示されません。

アップグレード前に混合モードを有効にしている、Cisco Smart Software Manager または Cisco Smart Software Manager サテライトに登録していない場合は、

- 警告メッセージが、[Cisco Unified CMの管理 (Cisco Unified CM Administration)] ページおよび [Cisco Unified OSの管理 (Cisco Unified OS Administration)] ページに次のように表示されます。



---

**注意** システムは現在、混合モードで実行しています。(The system is currently running Mixed mode.) 混合モードの実行を続けるには、登録トークンを使用してSmart Licensing登録を完了してください。登録トークンはスマート/仮想アカウントから取得するもので、輸出規制機能の許可がオンになっています。(To continue running Mixed mode, please ensure Smart Licensing registration is completed using the Registration Token received from the Smart/Virtual Account that has Allow export-controlled functionality checked.)

---

- Unified Communications Manager が登録トークンを使用して登録されていない場合、*SmartLicenseExportControlNotAllowed* という名前のアラートが送信されます。

シスコ スマート ソフトウェア ライセンシングの設定方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド』の「システムの初期パラメータを設定」に含まれている「スマート ソフトウェア ライセンシング」の章を参照してください。

『Smart Software Manager satellite Installation Guide』を含む、Cisco Smart Software Manager サテライトのインストールガイドの詳細については、<http://www.cisco.com/go/smartsatellite> を参照してください。

### PLM ライセンスの Smart Entitlement への移行

製品の Smart Licensing のバージョンにアップグレードする資格がある場合は、[ライセンス登録ポータル](#)または [Cisco Smart Software Manager](#) を使用して移行を開始できます。このプロセスを自己開始するには、ソフトウェアの Smart Licensing バージョンをダウンロードしてインストールし、登録トークンを使用してデバイスをスマートアカウントに登録します。シスコによって

追跡された権限の移行は、自動的に顧客のスマートアカウントに移行されます。また、未使用の従来の PAK をスマートアカウントに移行して、後でスマートモードの製品で使用することもできます。このプロセスは、[ライセンス登録ポータル](#)または [Cisco Smart Software Manager](#) から利用できます。

#### Unified Communications Manager 9.0x 以降のバージョンの 12.0(1)

- アクティブな Cisco Software Support サービス (SWSS) 契約を保有している場合は、次の URL で、Cisco Smart Software Manager を使用して、従来のライセンスを Smart Entitlement に変換できます。<https://software.cisco.com/#SmartLicensing-LicenseConversion>
- 次の 2 種類の移行がサポートされています。
  - PAK ベース : すでに履行された PAK、部分的に履行された PAK、および履行されていない PAK でサポートされます。
  - デバイス ベース
- 部分変換では、古いクラスタと Unified Communications Manager 12.0(1) のクラスタの混合環境がサポートされます。

#### Smart Entitlement へのアップグレード

##### Unified Communications Manager 9.0x より前 (デバイス ベース) ~ 12.0(1)

デバイスベースのライセンスを Smart Entitlement に移行する場合のサポートについては、Cisco Global Licensing Operations (GLO) にお問い合わせください。

顧客は、License Count Utility (LCU) を実行することによって必要な同等のユーザベースのライセンスを確立できます。詳細については、[http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/cucm/upgrade/uct/CUCM\\_BK\\_UCT\\_Admin\\_Guide/CUCM\\_BK\\_UCT\\_Admin\\_Guide\\_chapter\\_01.html](http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/upgrade/uct/CUCM_BK_UCT_Admin_Guide/CUCM_BK_UCT_Admin_Guide_chapter_01.html) を参照してください。

LCU のレポートから、顧客は Cisco Commerce Workspace を通じてそれぞれの数量のアップグレードライセンスを発注できます。これを超えると、新しいライセンスを追加購入する必要があります。詳細については、

<http://www.cisco.com/c/en/us/partners/tools/collaboration-ordering-guides.html> で『Ordering Guide』を参照してください。

## IM and Presence サービス ライセンスの要件

IM and Presence Service には、サーバー ライセンスやソフトウェア バージョン ライセンスは必要ありません。ただし、ユーザーを割り当て、その割り当てたユーザごとに IM and Presence Service を有効にする必要があります。



- 
- (注) Jabber for Everyone オファーを使用している場合、IM and Presence サービス機能を有効にするためのエンドユーザーライセンスは不要です。詳細については、『[Jabber for Everyone クイック スタート ガイド](#)』を参照してください。
-

IM and Presence Service は、各ユーザに関連付けられているクライアントの数に関係なく、ユーザ単位で割り当てることができます。IM and Presence Service をユーザに割り当てると、ユーザが IM とアベイラビリティの更新を送受信できるようになります。IM and Presence Service が有効になっていないユーザは、IM and Presence Service サーバにログインして他のユーザのアベイラビリティを確認したり、IM を送受信したりすることはできません。また、そのユーザのアベイラビリティステータスを他のユーザが確認することもできません。

次のいずれかのオプションを使用して、IM and Presence Service のユーザを有効にすることができます。

- Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)を参照してください。
- 一括管理ツール (BAT)
- Unified Communications Manager の [ユーザ/電話のクイック追加 (Quick User/Phone Add)] ウィンドウから参照できる機能グループテンプレートに IM and Presence Service を割り当てる。

詳細については、[Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)を参照してください。

IM and Presence Service 機能は、User Connect Licensing (UCL) と Cisco Unified Workspace Licensing (CUWL) の両方に含まれています。また、Unified Communications Manager IP テレフォニーユーザでないユーザに対しても、Jabber for Everyone オフラーを通じて IM and Presence Service 機能を入手できます。詳細については、『*Jabber for Everyone* クイックスタートガイド』を参照してください。

## 必要なインストール情報

Unified Communications Manager または IM and Presence Service をサーバーにインストールする際に、特定の情報を提供する必要があります。この情報はインストール中に手動で入力するか、応答ファイルを使用して提供してください。クラスタにインストールするサーバごとに、この情報を収集してからインストールプロセスを開始します。

次の表に、インストールを開始する前に収集する必要のある情報の一覧を示します。



- (注) フィールドの一部は省略可能であるため、設定に適用されない場合があります。たとえば、インストール時に SMTP ホストを設定しない場合もパラメータは表示されますが、値を入力する必要がありません。

フィールドの一部はインストールを完了すると、ソフトウェアを再インストールしない限り変更できなくなります。そのため、適切な値を入力するように注意してください。表の一番右の列に、インストール後にパラメータを変更できるかどうかを示しています。また、変更可能な

場合は、該当するメニューパスまたはコマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドを記載しています。

DMABackupInfo.inf ファイルを使用してシステムを設定する場合でも、この表をコピーして、各サーバーのエントリを個別の表に記録することを推奨します。

表 1: 必要なインストール情報

設定データ	説明	インストール後の編集可能性
<b>管理者の資格情報</b>		
管理者のログイン	管理者アカウントに割り当てる名前を指定します。	なし インストール後、管理者アカウントを追加作成することはできますが、元の管理者アカウントユーザ ID は変更できません。
管理者パスワード	管理者アカウントのパスワードを指定します。	可 CLI: <code>set password user admin</code>
<b>アプリケーションユーザの資格情報</b>		
アプリケーションユーザのユーザ名	システムにインストールするアプリケーションのユーザ ID を指定します。	可 CLI: <code>utils reset_application_ui_administrator_name</code>
アプリケーションユーザパスワード	システム上のアプリケーションのパスワードを指定します。	可 CLI: <code>utils reset_application_ui_administrator_password</code>
<b>セキュリティパスワード</b>		
Unified Communications Manager のセキュリティパスワード	クラスタ内のサーバーは、相互に通信する際にセキュリティパスワードを使用します。このパスワードを Unified Communications Manager パブリッシュャノードで設定するか、クラスタに追加ノード (IM and Presence ノードを含む) をインストールするたびにこのパスワードを入力します。	可。すべてのノードで次のコマンドを使用してセキュリティパスワードを変更できます。 CLI: <code>set password user security</code>

設定データ	説明	インストール後の編集可能性
<b>証明書情報</b>		
組織	証明書署名要求の作成に使用します。	可 CLI: <code>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state] [country]</code>
部門	証明書署名要求の作成に使用します。	可 CLI: <code>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state] [country]</code>
参照先	証明書署名要求の作成に使用します。	可 CLI: <code>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state] [country]</code>
州	証明書署名要求の作成に使用します。	可 CLI: <code>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state] [country]</code>
国	証明書署名要求の作成に使用します。	可 CLI: <code>set web-security [orgunit] [orgname] [locality] [state]</code>
<b>(任意) SMTP</b>		
SMTP の場所	電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。 電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。使用しない場合は空白のままにします。	可 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Operating System Administration で、<b>[設定 (Settings)]</b> &gt; <b>[SMTP]</b> を選択し、<b>[SMTP ホスト (SMTP Host)]</b> フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力。</li> <li>• CLI: <code>set smtp [host]</code></li> </ul>
<b>NIC インターフェイス設定</b>		



設定データ	説明	インストール後の編集可能性
NIC 速度	<p>イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) 速度の自動ネゴシエーションを有効にしていない場合、NIC 速度 (10 メガビット または 100 メガビット) を選択する必要があります。</p>	<p>可</p> <pre>CLI: set network nic eth0 {auto   {en  dis}} {speed  {10  100}} {duplex half  {half  full}}</pre> <p>(注) 1000 BASE-T は、自動ネゴシエーションを介してのみ有効にできません。</p> <p>(注) 仮想マシンでは、次のコマンドはサポートされていません。</p>
NIC 二重化	<p>イーサネット ネットワーク インターフェイス カード (NIC) デュプレックス設定の自動ネゴシエーションを有効にしていない場合、NIC デュプレックス設定 (全二重 または 半二重) を選択する必要があります。</p>	<p>可</p> <pre>CLI: set network nic eth0 {auto   {en  dis}} {speed  {10  100}} {duplex half  {half  full}}</pre> <p>(注) 1000 BASE-T は、自動ネゴシエーションを介してのみ有効にできません。</p> <p>(注) 仮想マシンでは、次のコマンドはサポートされていません。</p>
<p>MTU サイズ</p> <p>(注) MTU 設定は、クラスタ内のすべてのノードで同一にする必要があります。</p>	<p>MTU (Maximum Transmission Unit) は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。</p> <p>値は、ネットワーク内のいずれかのリンクに設定されている最小の MTU サイズを超えないようにしてください。</p> <p>デフォルト値は 1500 バイトです。</p>	<p>可</p> <pre>CLI: set network mtu [size]</pre>
ネットワーク情報		

設定データ	説明	インストール後の編集可能性
<p>DHCP</p> <p>(ダイナミックホスト コンフィギュレーション プロトコル)</p>	<p>DHCPを使用してサーバのネットワーク設定を自動的に行うには、[はい (Yes)] を選択します。</p> <p>[いいえ (No)] を選択した場合、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、ゲートウェイ、および DNS 設定の入力が必要です。</p>	<p>可。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Operating System Administration から、[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。</li> <li>• CLI: <code>set network dhcp eth0 [enable]</code></li> <li>• CLI: <code>set network dhcp eth0 disable [node_ip] [net_mask] [gateway_ip]</code></li> </ul>
<p>ホストネーム</p>	<p>DHCP が No に設定されている場合は、このマシンのホスト名を入力する必要があります。</p>	<p>はい。Unified Communications Manager ノードの場合は、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Operating System Administration で、[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。</li> <li>• CLI: <code>set network hostname</code> パラメータを入力するように求められます。</li> </ul> <p>IM and Presence サーバのホスト名を変更する方法については、『<i>Changing IP Address and Hostname for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service</i>』を参照してください。</p>
<p>IPアドレス</p>	<p>DHCP が No に設定されている場合は、このマシンの IP アドレスを入力する必要があります。</p>	<p>はい。Unified Communications Manager ノードの場合は、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Operating System Administration で、[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。</li> <li>• CLI: <code>set network IP eth0 [ip-address] [ip-mask]</code></li> </ul> <p>IM and Presence サーバの IP アドレスを変更する方法については、『<i>Changing IP Address and Hostname for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service</i>』を参照してください。</p>

設定データ	説明	インストール後の編集可能性
IP マスク	DHCP が No に設定されている場合は、このマシンの IP サブネットマスクを入力する必要があります。サブネットマスクと IP アドレスで、ネットワークアドレスおよびホストアドレスを指定します。  サブネットマスクは「255.255.255.0」の形式を使用する必要があります。	はい  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Operating System Administration で、[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。</li> <li>• CLI: <code>set network IP eth0 [ip-address] [ip-mask]</code></li> </ul>
ゲートウェイアドレス	DHCP が No に設定されている場合は、ゲートウェイアドレスを入力する必要があります。	はい  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Operating System Administration で、[設定 (Settings)] &gt; [IP] &gt; [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。</li> <li>• CLI: <code>set network gateway [addr]</code></li> </ul>
<b>(任意) DNS</b>		
DNS プライマリ	ドメイン ネーム サーバ (DNS) を備えている場合、IM and Presence はホスト名の解決を試みる際に、この DNS サーバに最初に接続します。	可  CLI: <code>set network dns primary [address]</code>
セカンダリ DNS (DNS Secondary)	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、IM and Presence はセカンダリ DNS サーバへの接続を試みます。	可  CLI: <code>set network dns secondary [address]</code>
ドメイン	このマシンが設置されているドメインの名前を表します。	可  CLI: <code>set network domain [name]</code>

設定データ	説明	インストール後の編集可能性
<b>タイムゾーン (Timezone)</b>		
タイムゾーン	現地時間帯とグリニッジ標準時 (GMT) からのオフセットを示します。マシンが設置されている場所に最も近い時間帯を選択します。	可 CLI: <code>set timezone [zone]</code>
<b>ネットワーク タイム プロトコル</b>		
NTP サーバの IP アドレス	IM and Presence パブリッシュャノードのインストール時に、外部ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバの IP アドレスを指定する必要があります。Unified Communications Manager パブリッシュャノードを NTP サーバとして使用することを推奨します。	Yes Cisco Unified Communications Operating System Administration で、 <b>[設定 (Settings)] &gt; [NTP サーバ (NTP Servers)]</b> の順に選択します。

## Export Restricted および Export Unrestricted ソフトウェア

このリリースの Unified Communications Manager と IM and Presence Service は、Export Restricted (K9) バージョンに加えて、Export Unrestricted (XU) バージョンもサポートしています。



(注) 無制限 (Unrestricted) バージョンのソフトウェアは、さまざまなセキュリティ機能を必要としない特定の顧客のみを対象としています。無制限バージョンは一般的な展開用ではありません。

Export Unrestricted バージョンは、次の点で制限 (restricted) バージョンと異なります。

- ユーザ ペイロード (情報交換) の暗号化はサポートされません。
- Microsoft OCS/Lync または AOL との外部 SIP ドメイン間フェデレーションはサポートされません。

- 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなります。無制限バージョンを含むシステムでの制限バージョンの更新インストールもサポートされません。
- 単一クラスタ内のすべてのノードを同じモードにする必要があります。たとえば、同じクラスタ内の Unified Communications Manager と IM and Presence Service ノードは、すべてが無制限モードまたは制限モードでなければなりません。
- IP フォンのセキュリティ設定が変更され、シグナリングおよびメディアの暗号化（VPN Phone 機能で提供される暗号化を含む）が無効になります。



(注) 無制限バージョンのリリースをインストールすると、制限バージョンにアップグレードできなくなるので注意してください。無制限バージョンを含むシステムでは、制限バージョンの更新インストールを実行できません。

すべてのグラフィカル ユーザー インターフェイス（GUI）とコマンドライン インターフェイス（CLI）で、管理者は製品バージョン（restricted または export unrestricted）を表示できます。

次の表は、Unified Communications Manager の無制限バージョンと IM and Presence Service では使用できない GUI 項目を示しています。

GUI の項目	場所	説明
<b>Cisco Unified CM Administration</b>		
VPN の設定	[拡張機能（Advanced Features）]>[VPN]	このメニューとオプションはありません。
電話セキュリティ プロファイルの設定	[システム（System）]>[セキュリティ（Security）]>[電話セキュリティ プロファイル（Phone Security Profile）]	[デバイス セキュリティ モード（Device Security Mode）] は、[非セキュア（Non Secure）] に設定されており、設定はできません。
<b>Cisco Unified CM IM and Presence Administration</b>		

GUI の項目	場所	説明
セキュリティ設定	[システム (System) ]>[セキュリティ (Security) ]>[設定 (Settings) ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [XMPP クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Client To IM/P Service Secure Mode) ] 設定はオンにできません。</li> <li>• [XMPP ルータツールータセキュアモードの有効化 (Enable XMPP Router-to-Router Secure Mode) ] 設定はオンにできません。</li> <li>• [Web クライアントと IM/P サービス間のセキュアモードの有効化 (Enable Web Client to IM/P Service Secure Mode) ] 設定はオンにできません。</li> <li>• [SIP クラスタ間プロキシツープロキシ転送プロトコル (SIP intra-cluster Proxy-to-Proxy Transport Protocol) ] を TLS に設定するオプションは削除されました。</li> </ul>
Cisco SIP Proxy サービスのための [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration) ]	[システム (System) ]>[サービスパラメータ (Service Parameters) ] から [サービス (Service) ] として、[Cisco SIP プロキシ (Cisco SIP Proxy) ] を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [Transport Preferred Order] パラメータの TLS オプションはすべて削除されました。</li> <li>• TLS オプションは、[SIP ルートヘッダーtransportタイプ (SIP Route Header Transport Type) ] パラメータから削除されました。</li> </ul>

GUI の項目	場所	説明
SIP フェデレーテッドドメイン	[プレゼンス (Presence) ]>ドメイン間フェデレーション (Interdomain Federation) ]>[SIPフェデレーション (SIP Federation) ]	OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションを設定するとポップアップが表示され、エンタープライズ内の別の OCS/Lync とのみ直接フェデレーションを行うことができるとの警告が出されます。エンタープライズ外の OCS/Lync とのドメイン間フェデレーションは、無制限モードではサポートされません。
XMPP フェデレーション設定	[プレゼンス (Presence) ]>[ドメイン間フェデレーション (Interdomain Federation) ]>[XMPPフェデレーション (XMPP Federation) ]>[設定 (Settings) ]	セキュリティモードを構成できません。TLS なしに設定されています。
プロキシの構成設定	[プレゼンス (Presence) ]>[ルーティング (Routing) ]>[設定 (Settings) ]	優先プロキシリスナーとして TLS または HTTPS リスナーを設定できません。





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。